

精神保健福祉活動支援事業実績報告書

事業名	高次脳機能障がい在宅生活支援研究事業(事例検討会)		
実施期間	平成28年11月 ～ 平成29年 3月		
実施地域	県央地域	参加対象者	PSW、OT等の専門職及び当事者
事業内容	<p>1 目的</p> <p>高次脳機能障がいの当事者は、原因事故や疾病が回復して、医療機関を退院した後も、記憶障害、注意障害、遂行機能障害、社会的行動障害などにより、職場や学校などにおいて、発症前との落差が大きく、また、「見えない障害」として、社会の理解も不十分なことから、適切な支援も受けられないまま、周囲とのコミュニケーションが取れないから、周囲とのトラブルを生じたり、孤立化して2次的に適応障害などを生じるなど、社会への復帰が困難なケースも多い状況である。</p> <p>そこで、あかり会員である高次脳機能障がい当事者の職場や地域生活支援について、精神保健福祉士、作業療法士、言語聴覚士など、医療機関内で治療等に従事している専門職に、事例検討に参加していただくことにより、理解を深めていただくとともに、関係する多職種のネットワークの構築や急性期リハビリと在宅生活支援の橋渡しの一助とすることを目的とする。</p> <p>2 具体的な事業</p> <p>ア まず、この研究事業の趣旨を理解していただくために、各職種団体及び高次脳機能障がいの拠点医療機関等に呼びかけ、これまでに行われた市民公開講座でのアンケートのまとめを「宮崎大学リハビリテーション科」のOTなどから説明、研究事業の趣旨を理解していただくとともに、高次脳機能障がい当事者にも研究事業の事例提供に協力していただくように要請する。</p> <p>イ 事例検討では、急性期リハビリは終了したものの、身体的な不自由さ(半側空間無視、コミュニケーションの障がいなど)が残っている場合、どのようなリハビリを行えばよいのか、精神科との関わりなどについて、協議していただく。</p> <p>ウ また、就労している当事者、就労支援事業所に通所している当事者などの事例を検討していただき、どのような手順で退院から就労まで繋げていくのかを協議する。</p> <p>エ 2回の事例検討会において、どのような取り組みが必要か、実際の在宅生活ではどのような課題が残るかなど、アンケートを纏めることとする。</p>		

3 実施結果

- ア 関係機関等への周知 平成28年11月14日以降に関係団体、高次脳機能障がい協力医療機関に事業の趣旨を説明、協力要請
- イ 実施方針の協議 平成28年11月17日のあかり定例会において、研究事業の実施について決定
- ウ 開催案内の発送 拠点病院等に開催案内を郵送（40部）
- エ 研究事業の説明会 平成28年11月30日（水）19時から20時30分まで宮崎市民プラザ4階会議室において、事業の趣旨説明（別添の通り）
- オ 第1回事例検討会 平成29年 1月18日（水）19時から21時まで宮崎市民プラザ4階会議室において、あかり会員である当事者2名が事例を提供して別添の通り検討会を実施
- カ 第2回事例検討会 平成29年 3月15日（水）19時から21時まで宮崎市民プラザ4階会議室において、あかり会員である当事者2名（前回とは異なる）が事例を提供して、別添の通り、検討会を実施
- キ 実績の取り纏め アンケートを取り纏めて、3月16日の高次脳機能連絡会議で今後の取り組みなどについて報告した。（別添の通り）
- ク 結果報告 拠点病院等にこの実施結果及びあかりの紹介チラシを郵送した。

みやざき高次脳機能障がい家族会あかり 会長 長友香保利

説明会の様子

平成28年11月30日の夜7時から、市民プラザ4階中会議室において、PSW、OT、STなどの専門職の方々に集まっていたいただき、高次脳機能障がい地域生活支援研究事業～当事者が在宅で安心して暮らせるために～への参加を呼び掛けました。

あかりの会員を含め、PSW、OT、ST、ケアマネ、相談支援専門員に加えて、教育関係者や地域で活動されて居られる方など、35名の参加があり、

高次脳機能障がい当事者の困りごとや取り組み状況を、市民公開講座のアンケートを纏めて、宮崎大学病院リハビリテーション科の作業療法士、中武氏から報告していただいた後、

みやざき保健ふくしまつりで披露した当事者だけによる大喜利の趣向で、5名の会員に、困りごとや将来の希望を話していただきました。

意外にも時間が経過したため、各職種代表の感想しか、お聞きできませんでしたが、有意義だとする意見が大半でした。



高次脳機能障がい第1回事例検討会の様子

平成29年1月18日、水曜日の19時から21時に掛けて、みやざき市民プラザ、4階中会議室において、高次脳機能障がい当事者の在宅生活を支援するため、当事者が参加しての事例検討会を開催し、あかりの会員である当事者二人が事例提供者となり、会場の専門職とやり取りを行いました。

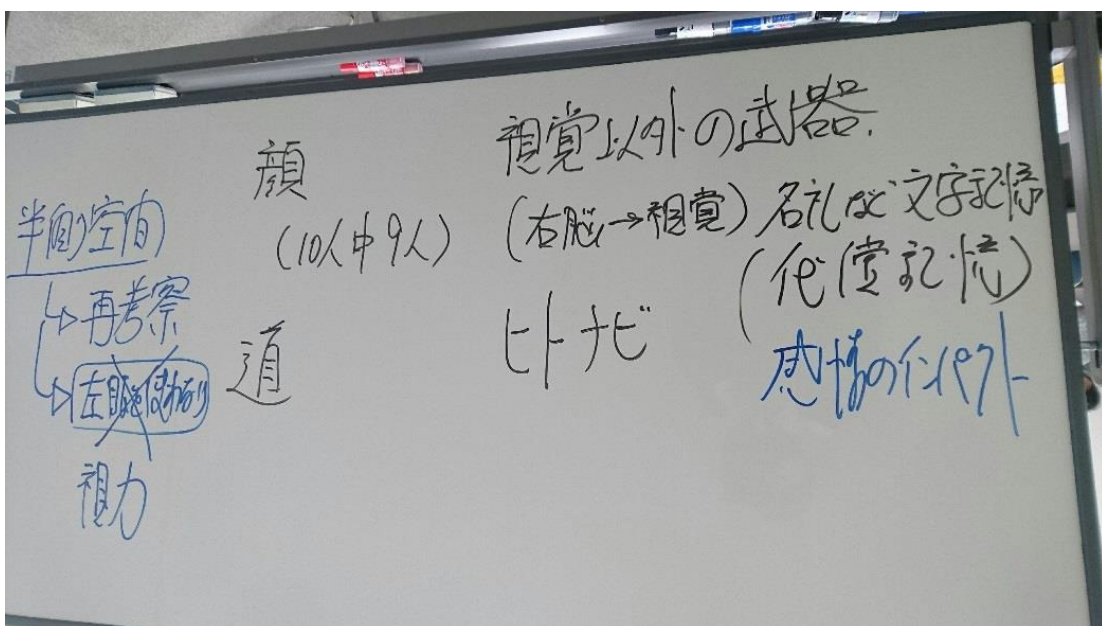
一人は主に、人の顔を覚えられない、帰り道が分からずに迷ってしまう、また、認知機能の障がいである左側半側空間無視について、暮らしにくさを訴え、自分なりの対策として、相手に覚えて貰う、人に尋ねる=ヒトナビ、左眼を使わないようにしていると話されました。

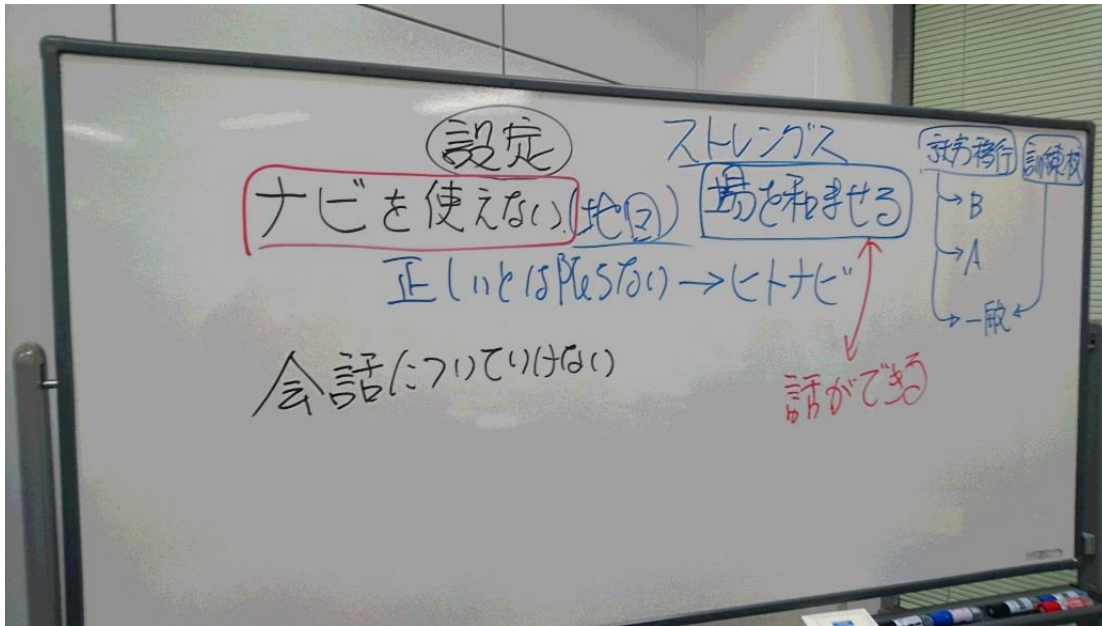
フロアからは、顔の代わりに名札で覚えたら、ヒトナビは凄いななどの意見な他に、時間を割いて参加された市立田野病院リハビリテーション科DRからも、半側空間無視かどうか、検査をした方が良く、また、認知機能の障がいだから、左眼を使うようにした方が良くとのアドバイスがありました。

もう一人は、スマホの操作を覚えられない、道を尋ねてもスマホのナビを使えば？と言われるがスマホを持って来てないと誤魔化しているなど、周囲が理解してくれない暮らしにくさを訴えました。

会場からは、人を和ませる雰囲気があり、ストレングス=強みではないか？、スマホの操作ではなくて、地図を読むのが苦手なだけでは？などの意見がありました。

初めての試みで、困り感を共有できるか、不安もありましたが、かつての支援者との語りなど、会場が盛り上がり、それぞれの障がい、実際の在宅生活の中では、どのような困り感を生むのか、感じ取っていただけたと思います。





高次脳機能障がい第2回事例検討会の様子

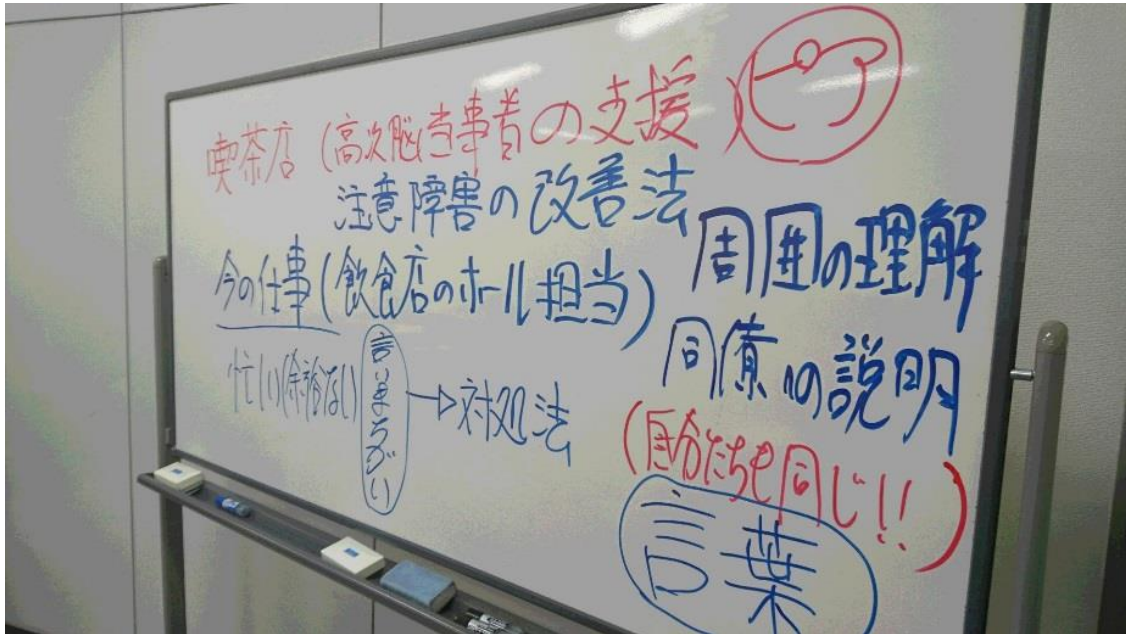
平成29年3月15日、水曜日の19時から21時に掛けて、みやざき市民プラザ、4階中会議室において、高次脳機能障がい当事者の在宅生活を支援するという目的で、当事者も参加しての事例検討会を開催し、あかりの会員である(前回とは別の)当事者2人が事例提供者となり、参加した専門職の皆さんのアドバイスを受けました。

一人目の当事者は、知り合いの飲食店で接客を担当しているが、自分の考えを纏めて人に伝えることが難しい、やり取りの中で考えを纏めるのに時間が掛かる、話そうとした際に的確な言葉が出てこないなど、「言語障害」で困っていると訴えました。

これに会場のSTから、言葉そのものの認識が出来なくなっている「言語障害」と、言葉は認識しているが想起することが難しい注意障害の可能性もある。DRではないので、個別の事例の判定は出来ないが、一般論としては、ダメージを受けた脳機能や部位により、取り組むリハビリにも違いがあるとアドバイスあり。

関連して、家族から、「他にもおしゃべりが苦手な当事者がいるが、リハビリに取り組む際に、アドバイスして貰えるか？」との要望がありました。

また、同僚から「自分も物忘れするし、同じ」と言われたりするが、質的、量的に大きな違いがあると、何度も説明してようやく、理解して貰ったが、お客様の中には、高次脳機能障がいに伴う症状と理解してくれない方もおられるが、お客様なので、あまり、言えずに困っているとの訴えもあり、社会の理解を進める必要性を改めて感じました。



もう一人も、地元の企業で責任ある立場になっているが、事故から十数年経た現在も、記憶障害や遂行機能が残っている。職場内では、自分の症状を説明し、手順やスケジュールを皆んなに分かるように貼っておくとか、自分なりに工夫している。

これまで、やって来れたのは、最初に出会った県外のDRとSTが退院後も、何時でも、相談に乗ってくれ、明るく前向きに取り組んで来たから～専門職の皆さんの協力も得ながら、社会の理解を深めていただきたい。

また、高次脳機能障がいなど、精神障害の就労は厳しい状況であり、行政でも身体障害のような枠がないし、企業でのサポートもまだまだというのが実状と訴えました。

